

## ヒジキについて

環境増養殖担当(旧生産科 牧野賢治)

Key word ;ヒジキ, 生育状況, 生殖細胞, 養殖, 鳴門市北灘町

---

ヒジキは海藻類であり, 潮の干満により海に浸かったり, 露出したりする岩や大きな石の上に生息します。ヒジキとはどのような海藻かということを知ってもらうために, 筆者が鳴門市北灘町地先で年間を通してヒジキを観察しましたので, 簡単に紹介します。

次の写真は 6 月中旬ごろのヒジキの生息状況です。ヒジキは岩の上に根をはりこのように密生しています。1本のヒジキの長さは約 60~80 cmあります。



写真1 ヒジキの生育状況



写真2 6月のヒジキ

7月になるとヒジキは80 cmから1m近くまで生長し、茎も太くなります。この頃になると水温が20度を越え始めます。そうするとヒジキの藻体から生殖細胞というヒジキの種をつくる部分ができます。この生殖細胞が発達するにつれてヒジキ自体の藻体は枯れていき、葉の部分や茎がちぎれていきます。



写真3 7月に採取されたヒジキ



写真4 ヒジキの成熟  
(黒い部分が種を持つ生殖細胞)

8月、ヒジキの茎の部分すべて枯れて、流失します。そして、岩や石にへばりついている根だけが残ります。この根からは新しい根が岩の上をへばりつくように伸び、9月には約2~3 cmの若芽ができます。ヒジキの繁殖方法には、種を出して増やす方法と根が新しい細胞を作ってそのまま藻体へと生長する方法があります。



写真5 8月のヒジキ

11月になると、ヒジキは10～15 cmに生長します。これ以降は水温が上昇し始める3月までは目立つ程の生長が観察されませんでした。



写真6 11月に採取されたヒジキ

4月、寒い冬が過ぎ、水温も上昇すると、ヒジキは急激に生長します。左の写真のようにヒジキ藻体の全長が30～40 cmに生長します。以上がヒジキにおける1年間通しての生長状況です。

このヒジキの観察は北灘漁業協同組合粟田支所の青壮年部の人たちの協力によりできました。この協力を無駄にせず、徳島県の漁業振興のためにもヒジキ養殖実現へと努力していきたいと考えております。



写真7 4月のヒジキの生育状況



写真8 4月のヒジキの藻体